

COMMONS PICNIC

2024
12.13 → 15

「COMMONS PICNIC」は、公園や広場、
はたまた、森、さらに大きく都市！？をテーマに、
複数のコモンズをピクニック感覚で巡ることができる
“同時多発的コモンズ横断プログラム”！

#1 京都精華大学

シティリペア-都市におけるケアの実践-

内容：講演会

講師：マット・ビボウ（通訳：江頭 一晃）

主催：京都精華大学 メディア表現学部 大下ゼミ / 共催：FUNAGORA

場所：iC-Cube（京都精華大学 明窓館2Fコミュニケーションセンター）

12.13 fri.
18:30-20:00

無料・予約不要

#2 宝が池公園

森のケアと報酬

内容：シティリペアWS

講師：マット・ビボウ（通訳：江頭 一晃）

12.14 sat.
11:00-18:00

一般参加なし

#3 新大宮商店街

街のケアと報酬

内容：シティリペアWS（一般参加可能・予約不要）

講師：マット・ビボウ（通訳：江頭 一晃）

場所：新大宮商店街「むらさきプラザ」

12.15 sun.
09:00-11:00

無料・予約不要

#4 船岡山公園

ロマンチックな金銭感覚

内容：

11:00 - 15:00 地域通貨が使えるマルシェ

16:00 - 17:30 クロストーク / テーマ：コモンズのケアと報酬

ゲスト：マット・ビボウ（通訳：江頭 一晃）

緑茶麻悠、佐伯龍蔵、杉田真理子

17:30 - 19:30 映画上映「ロマンチック金銭感覚」

12.15 sun. 無料・予約不要
11:00-19:30

主催：FUNAGORA（船岡山公園オープンパーク実行委員会）

協力：新大宮商店街チーム、株式会社一級建築士事務所 STUDIO MONAKA

一般社団法人ぽくみん、浄土寺コミュニティ、京都精華大学、洛北社中、

地域通貨クワガタ、まちのレコード

お問い合わせ

075-406-1919

funaokyama.park@gmail.com

INSTAGRAM



詳細はこちら！

COMMONS PICNIC#3,4は、「京都市定住・移住応援団」として、
京都市との公民連携で実施します。
協力：京都市総合企画局人口戦略室、建設局みどり政策推進室



京都市

COMMONS PICNIC



ゲスト

マット・ビボウ Matt Bibeau

ポートランドのアーバンパーマカルチャー最先端を走り続ける実践的リーダーであり、パーマカルチャー教育者であり、ファーマー(農民)でもある。ポートランドのアーバンファーム「Jean's Farm」を仲間たちとともに管理・運営するとともに、シュタイナー教育をベースにしたアウトドア学校「Mother Earth School」を運営。また、パーマカルチャー教育者を育成する「IPEC (Institute of Permaculture Education for Children)」のCEOや大学のパーマカルチャーコースの講師も務める。行政と市民活動をつなぎパワフルに機能するNPO「シティリペア」のコアメンバーとしても12年に渡り活躍。2児の父。



ゲスト

杉田真理子 Mariko Sugita
一般社団法人「for Cities」共同代表・理事

ブリュッセル自由大学アーバン・スタディーズ修了。都市体験のデザインスタジオfor Cities共同代表理事。都市・建築・まちづくり分野でのキュレーションや新規プログラムのプロデュース、ディレクション、ファシリテーション、アーティストとしての表現活動ほか、京都左京区にて元小児科の洋館を改修したアート・アーバンセンター「Bridge Studio」の運営や同エリアでのまちづくり活動を行う。共著に『多拠点で働く：建築・まちづくりのこれから』（2023）。



ゲスト

緑茶麻悠 Mayu Ryokucha
佐伯龍蔵 Ryuzo Saeki

緑茶 麻悠 映画監督・女優

京都市で生まれる。京都市立芸術大学油画専攻卒業。在学中にはミュージカルと出会い出演を続け、上京。映画「関ヶ原」、NHK連続TV小説「ひよっこ」などにも出演。俳優として数々の舞台や映像作品に出演する経験から仲間で作りに上げていくことに魅力を感じ、舞台演出や短編映画の脚本、監督をするようになる。現在は京都を拠点に、日々の暮らしの中で見えてきたものや感じたことをテーマに絵画、音楽制作など自由気ままに活動している。監督作の短編映画「wind chime」が2017 新人監督映画祭短編作品部門「グランプリ」2018 京都国際映画祭クリエイターズファクトリー「観客賞」を受賞。

佐伯 龍蔵 映画監督

1985年生まれ、富山県出身。小学生の頃から映画監督を志す。京都精華大学文学部を中退し、1年半アジアを放浪した後、2007年より富山のミニシアターで映写技師として勤務。劇場に舞台挨拶に来た市井昌秀監督に懇願し、映画製作の現場に制作部として参加。2012年に上京後、市井昌秀、金子修介、豊島圭介、矢口史靖の作品に助監督として参加。体調の不調により商業映画の助監督から身を引き、清掃のアルバイトをしながら自身の映画を制作し始める。2013年に地元の商店街を舞台にした地元映画「がんこもん」を監督。勤務していた劇場で1000人以上の動員を記録する。2020年、東京都世田谷区を舞台に長編映画「あそびのレンズ」を監督。

12.15 sun. TIME SCHEDULE

街のケアと報酬 @新大宮商店街「むらさきプラザ」

09:00 - 11:00 シティリペアWS
講師：マット・ビボウ（通訳：江頭一見）

ロマンチックな金銭感覚 @船岡山公園

11:00 - 15:00 地域通貨が使えるマルシェ

16:00 - 17:30 クロストーク
テーマ： commonsのケアと報酬
ゲスト： マット・ビボウ（通訳：江頭一見）
緑茶麻悠、佐伯龍蔵、杉田真理子

17:30 - 19:30 映画上映「ロマンチック金銭感覚」



映画「ロマンチック金銭感覚」

東京ドキュメンタリー映画祭2023 長編コンペティション部門 準グランプリ受賞 お金の裏側にある「幸福」を探す旅 一緒に金銭感覚ツアーしませんか？
全ての人類にコミットするやさしさとユーモアあふれるファンタジックドキュメンタリー。俳優の緑茶麻悠と映画作家の佐伯龍蔵が共同で監督した本作は、二人が独自の金銭感覚を持つ人々に取材を重ね、フィクションとして新たに再構築する誰も見たことがなかった映画となった。未曾有の金融危機、円安による物価の高騰、市民への容赦ない課税、普段私たちが財布に入れているお金についての本質を問いかける！